こうじん

題字　理事長　北川　宏

発行元　医療法人社団　宏仁会小川病院
〒355-0317
埼玉県比企郡小川町原川 205
電話　0493-73-2750
FAX　0493-72-5192
発行者　理事長　北川　宏
発行日　平成 18 年 12 月 23 日

絵画　「谷川岳」　常務理事　大谷　百子

第18号

創立25周年記念号

2006年

≪目次≫

創立 25 周年に寄せて
寄稿　（病院の沿革）…… 2～11
第 6 回 3 施設合同研修会 …… 12～17
新クリニックの報告と今後の予定 …… 18～20
平成 18 年度を振り返って …… 21～22
平成 19 年度の主な事業計画案 …… 23
人事往来・編集後記 …… 24

創立25周年に寄せて

【原川敏雄氏御夫妻の思い出】

北川　宏

その端正な風貌と紳士然とした物腰が、原川敏雄さんを回想する時の心象風景である。

昔の郷には、必ずその土地を代表する様な「むらおさ」と呼ばれるにふさわしい長老がいたものである。原川さんはその名に恥じない最後の人ではなかったかと思う。後で知ることになったが、若い頃村長さんを勤めたこともあったそうだ。

平成16年3月5日原川さんの告別式で生前の多くの社会的貢献を知ったが、ここでは、この病院の成り立ちに深く関与した医療貢献の足跡を辿ってみる。

昭和55年（1980年）迄に多くの病院敷地をみていたが、この時の原川さんとの邂逅とその土地に巡り合い、敷地の決定に逡巡することはなかった。

御先祖からの大事な土地を医療機関の設置という活用には、それ程単純なことではなかったと思われる。そうした中で、御家族の立場も考慮されている様に見受けられたが、医療に対する理解が非常に深かった事や、当地区にも医療機関の誘致が必要であるとのお考えが、主なる誘因となって決断されたのではないかと思う。その時の原川さんの決断で、小川原川の土地に内科と人工透析治療という一粒の種子が播かれたのである。

その後、東松山市へ人工透析を主とする治療の拠点としてクリニック2施設が増設され医療活動の展開が見られた。こうして宏仁会各施設の発祥の地となったのは、その時の原川さんの決断に負うものである。

我々はその恩恵を終生忘れる事は出来ない。その遺志を未来にわたって引き継いでゆきたいと念ずるものである。

その原川さんを支えた原川すまさんは、大家の奥様でありながら無駄に座している事もなく農作業に精を出されて倦む事を知らない毎日であった。

或る時、東松山市からの入院患者さんの男性がすまさんの農作業の姿を病院から眺めていて、「あの方は原川すまさんでは」と問われてびっくりした事があった。その人の語るところでは「私は原川すまさんとは学校が同学年であったが学校で走るのも勉強も何事も一番であった。」との懐旧談であった。

長い余命を疑いもなく信じる程の健康体であったが、病に伏する事になった。

最後を迎えて亡くなる5日前の事であったが、呼吸不全の状態の中で私の呼びかけに答えて「先生も元気を出して頑張ってください」と笑顔で逆に励ましを受けた。その時に明らかに御自身の死期を悟っていたかの様な表情が感じとられたのである。

故　原川　敏雄様

故　原川　すま様

その様な状態の人生最終の病床にあって、他を思いやり真面目に生きて来た人としての誇りを失わないその姿勢に強く打たれるものがあった。

その御夫妻も今は現世で会う事はできない。

生前終始変わらぬ温情に接し往診の度毎に原川さんの話を聞くのは楽しい一時であった。後に創立記念日となった昭和 56 年 12 月 2 日開院の午前中の外来患者さん 3 名の中で、全くの健康体であったのは原川すまさんだけであった。

何故受診したのだろうか。

私にはその行為が診療所と私を励ます為の受診の様に思えてならなかったのである。

おわり

平成 18 年 11 月 28 日

昭和 55 年 8 月 2 日
診療所開設用地調査 8 回目にして、
原川敏雄氏所有の栗林に決定した。

『 祝　創立 25 周年 』

【宏仁会小川病院とのかかわり】

原川　健　様

「ザクッ、ザクッ、ザクッ」篠のようなカヤを刃渡り 40 センチの合刈鎌でなぎ倒して、夏の一日が暮れる。暗くなった空を見上げると、桐の枝とエンジュの枝があと 50 センチ程で交叉する。枝が重なり合い太陽光線が遮られれば、雑草は生えなくなり草刈が省ける。住込の男衆女衆で管理していた田畑を、機械を頼りに挑む無謀な私の苦肉の策です。

北川先生が我が家を訪れたのはこんな時でした。先生は岩床の露出した兜川をご覧になり、透析装置の重量等とまとまった土地を考え、父にお話になりました。父は先生のお話と当時無医村の竹沢地区を考え、そして、なによりも先生の人柄から提案を受ける決断をしたようです。

しかし、父から話を聞いた私は即断できませんでした。地続きの土地であることのこだわり、苦労して育てた木々への未練等、当時は本当に迷いました。先生は、そんな私に透析医療の実情等を丁寧に分かり易く、説明してくれました。

病院開設の取り組みが始まりました。数人のスタッフの昼夜を分かたない、エネルギッシュな仕事が続きました。北川先生も現場に泊り込みでした。

小川診療所の開設です。地域医療もスタートしました。私の同僚の奥さんも、秩父からの継続で、いの一番に患者となりました。（現在も通院しています。）

北川先生は外来患者にも治療を丁寧に説明します。今でこそ一般的になりましたが、当時の地域の患者にとってこれは驚きでした。北川ファンの増加に伴い、地域住民の医療理解も増えていきました。

我が家も先生から様々な情報をいただきましたが、私はと言うと、治療に対し、先生に任せっきりで真剣さに欠けていました。

真夜中に激しい胸の痛みを覚え、病院に駆け込みました。当直のスタッフの対応は素早く的確でした。埼玉医大に救急車で運ばれカテーテル治療を受け、心筋梗塞一歩手前で止めていただきました。

時が流れ、母、父と相次いで亡くなりましたが、共に 89 歳、91 歳と長寿を全うできました。ひとえに、病院のお陰です。特に、父はわがままな性格に加え夜間せん妄を併発し、看護困難な状況で大変ご迷惑をおかけしたにもかかわらず、懸命の努力をいただきました。関係者の皆様、本当にありがとうございました。

一方、お陰様で地域住民の医療理解も進みましたが、以前の私同様、お任せ受診の傾向はまだまだ続いているのが実情です。私達は、軽易の疾患以外は、専門の病院に行く判断が出来る患者でありたいものです。小川病院にとって、地域医療は取り組みにくい仕事に違いはありません。とまれ、今振り返ると、我が家は北川先生との出会い、小川病院の皆様との出会いに救われた感が強いです。

【 25 周年のあゆみ 】

医療法人社団　宏仁会小川病院
理事長　北川　宏

Ⅰ．開設初期の記録

こうじんの編集者から「25 周年のあゆみ」と題して寄稿を求められた。記録は通常事実の羅列であり、味気無いものであるが、開設当時の記録から抜粋してその頃の状況を振り返ってみる。

今から 26 年前の 1980 年（昭和 55 年）8 月 2 日、診療所用地の調査 8 回目にして小川町原川を開設用地として決定した。当時私は埼玉医大から小川日赤へ週 1 回出向していたので、日赤外来終了後、柳重治氏と同道し原川敏夫氏所有地である栗林の土地に案内してもらった。後年柳氏は自分が案内した所で透析治療を受けることになろうとは想像もしてなかっただろうと思う。まさに人事の明日は分からない。

当時、比企地域には民間の透析施設は皆無に近く、小川に開設されればこの地域の嚆矢となるものであった。

1981 年（昭和 56 年）12 月 2 日小川診療所開院。初代事務長、松下昌宣氏、以下職員 7 名の出発であった。記録では、当日は快晴、日本列島・雪、午前外来受診 3 名とある。以後 12 月 2 日が本院創立記念日となる。

更に 2 年後には病棟増築となり、

1983 年（昭和 58 年）10 月 14 日小川診療所増築地鎮祭。

1984 年（昭和 59 年）5 月 8 日、宏仁会小川病院病棟竣工式。病院玄関前にて埼玉医科大学病院院長・大島良雄教授、第２内科・土肥豊教授、小川日赤・町野龍一郎副院長、第２内科医師職員一同、記念写真撮影竣工式開場へ移動、祝宴を開く。「開設に当り、医道に悖ることなく病院づくりに職員一同一体となって取り組む。」との要旨の挨拶を為す。

1991 年（平成３年）2 月 1 日、医療法人社団認可。埼玉県庁において法人名と施設名を共通名称として認可され、以後「宏仁会小川病院」を法人名、施設名共通の正式名称とする。

法人認可は高坂に宏仁クリニックを開設する為に必要な許認可事項であった。これは事務長・松下昌宣氏の労苦の賜であり、その業績は特筆記録すべき事柄であった。当時小川施設における東松山市内からの通院透析患者数は全体の 25%にも達し、通院困難からの施設要請があり実現するに至った。

平成 3 年 5 月 1 日、宏仁クリニック（高坂）開院。相原幸雄医師を初代院長として発足、職員 3 名。

同年 12 月忘年会、創立 10 周年記念行事、10 年勤続表彰。

平成 4 年 3 月 6 日、松下昌宣氏逝去に伴う松下家・病院合同葬挙行。於、深谷市大谷家。

同年 10 月 20 日、相原院長、冨田新院長歓送迎会。於、深谷市大谷家。

1995 年（平成７年）5 月 1 日、東松山宏仁クリニック開院。吉川康行院長就任。職員 4 名、宏仁クリニックよりの転院患者診療開始。以後、5 月 1 日は宏仁クリニック、東松山宏仁クリニック共通の開院記念日となる。　→

こうして開院された 3 施設連携の運営が始まった。

1998 年（平成 10 年）4 月 16 日徳竹事務長就任。直ちに人事、財務、事務全般統括の業務開始。

2000 年（平成 12 年）1 月 1 日、宏仁会小川病院、吉田哲院長就任、呼吸器科標榜。睡眠障害医療センター長兼任、現在に至る。

以上は記録の中の一部抜粋である。25 年の年月には病院にも紆余曲折があり、職員にも個人的な悲喜交々の生活があり、ようやく節目を迎えたものと考えている。

平成 18 年、こうして迎えた 25 年間には多くの人との邂逅があり、その人達の様々な個性と向き合っての 25 年であった。病を診る者、命を看取る者、それを支える者を含めた多くの人との交流を想起すれば様々に去来するものがあった。これからの年月も又この事情は変わる事なく続くであろう。病院運営も又続いていかねばならない。

時代を超えて、普遍的な医療理念は変わることはないが、社会の進歩や時代の大きなうねりに対しては現状維持に固執することなく必要な改革を恐れてはならない。

医療環境の改善、医療の質の向上はいずれの医療機関も追い求めているものであり、医療の体制も旧態依然を脱しなければならない。

Ⅱ．環境整備と運営の改善

環境整備の具体化は高坂施設の移転拡充計画と小川、東松山両施設の増改築である。平成１8 年 11 月現在高坂における計画は着手されて居り、平成 19 年末迄には 3 施設の整備は完了の予定である。これらの事業計画は医療の質を高める為の環境づくりの一連の展開である。

次に運営の改善は、現在院内各部署で標準化を初め医療管理体制、広義の宏仁会運営合理化対策として進められている。これらは、いずれも医療の質を高める為の対応策である。

又、医療の質を高める為には病院運営の円滑化が必要であり、それを実現するにも経営の安定が前提となる。25 年を経た今後の運営には過去の経験と教訓を生かした指針が確立されねばならない。その為に長期的展望に立ち、広い視野からの人事の刷新交流が今後の運営の要となる。

宏仁会は組織が生み出す創意工夫をもって、地道な医療活動を継続し医療の質の確保という運営理念の実現に努力したい。

宏仁会のこの運営方針には多くの賛同者の協力が必要であり、3 施設を再編成し新たな挑戦を始めるのが２５周年に向けての理念である。

宏仁会小川病院（絵）
小川町在住の小学生が写生の時間に描き、自筆絵ですと寄贈してくれた。

宏仁会小川病院　沿革

1981 年（昭和 56 年	12 月 2 日	「小川診療所」開院 内科診療・透析ベッド　10 床
1982 年（昭和 57 年）	1 月 4 日	夜間透析開始
1984 年（昭和 59 年）	2 月 29 日	病棟を 34 床に増床
1987 年（昭和 62 年）	8 月 7 日	名称を「宏仁会小川病院」とする
	2 月 1 日	透析室拡張・透析ベッド 18 床 法人名を取得 正式名称を「医療法人社団宏仁会小川病院」と称す
	5 月 1 日	東松山市元宿に「宏仁クリニック」を開院 内科診療・透析ベッド　18 床
1994 年（平成 6 年）	7 月 25 日	宏仁会小川病院正面玄関改装
1995 年（平成 7 年）	5 月 1 日	東松山市材木町に「東松山宏仁クリニック」を開院
1996 年（平成 8 年）	2 月 2 日	宏仁会小川病院に手術室増設
1999 年（平成 11 年）	11 月 4 日	宏仁会小川病院の透析室を増築（透析ベッド 40 床となる）
2000 年（平成 12 年）	1 月 1 日	宏仁会小川病院に「睡眠障害医療センター」設立
	3 月 7 日	この年より、宏仁会 3 施設全職員の「職員総会」が毎年 1 回行われることとなり、組織運営と改善方針が提示されている
2001 年（平成 13 年）	7 月 15 日	この年より、宏仁会 3 施設の患者様を対象にした合同の研修会が開催されている
2006 年（平成 18 年）	3 月 7 日	宏仁クリニック移設･新築事業計画が広島国際大学教授久保田秀男先生の基本設計・監修のもと、本格始動する

【宏仁会小川病院 25 周年と患者友の会 25 年の歩み】

宏仁会小川病院　大谷　唯秋様

この度、開業 25 周年記念を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。当病院は結成以来、常にお互いに励まし合い困難を克服しながら 25 年というながきにわたり、腎臓病患者や家族の医療福祉の向上をしてこられました。患者友の会を代表して心からお礼申し上げます。

私は昭和 54 年 12 月 10 日より透析導入になりました。その後、昭和 56 年 12 月 2 日に小川診療所を開業されました。その 1 年後、看護士の田中さんが、一度病院に見学に来るようにとの事ですぐに見学にまいりました。

その当時の透析用監視装置

SR-12.・・12 台

DSS-22・・1 台

DCS-31・・2 台

AK-10・・・1 台

透析スタッフは

院長先生・医師　4 名

看護士・・9 名

事務員・・3 名

調理師・・3 名　その他　数名

などの、透析機械が導入され、埼玉医大よりも新しい透析装置が入っているのを見て安心して宏仁会小川病院に移る事にしました。

病院が開業されてから 1 年位して、宏仁会小川病院友の会をつくりました。

友の会の親睦をはかると共に、全腎協、埼腎友の活動に協力し参加する。また、患者全員が会に入会するようにしました。私は幹事として病院会から推薦され、全腎協活動や埼腎友活動へ積極的に参加するよう努め、会議の内容や資料を病院会に伝達する役目があり、病院会の活動や地域の情報を埼腎友に報告しています。

当時、宏仁会小川病院友の会事業として、

1. 春は花見による旅行で会員相互の親睦をはかる。

2.. 秋は一泊旅行で先生、スタッフ、患者同志の交流し励まし合い、透析療養について語り合う場を

3.. 食事会又は外でのバーベキュー大会を月に 1～2 回行なった。

4. スタッフ、患者によるカラオケ大会、ボーリング大会を開きました。

5.年 1 回の医療講演会を行ないました。

透析専門の先生、スタッフ、調理師などを招いて学習会、講演会など活発に開いて腎臓病、透析治療、腎移植について知識を積極的に学ぶ努力を続けてまいりました。腎臓病という原因不明で根本的な治療法もわからない難病にも負けず、患者の多くは制約の多い人工腎臓により透析を受けながら社会復帰をし、又それを目指して頑張っています。その為に、患者同志が交流し励まし合っています。

私たちの先輩の皆様が命をかけて運動した結果、勝ち取った身体障害者手帳の交付や更正医療の適用、障害年金の給付、人工腎臓の増設等々、腎臓病患者をめぐる医療と生活のため条件を進めてまいりましたが、この事を忘れずに、会員が団結し努力を惜しまず頑張り続けなくてはと考えております。これから、宏仁会小川病院も益々大きくなり、透析患者は 100 名以上となり、また、宏仁クリニック・東松山宏仁クリニックも開業されまして、当、宏仁会小川病院の院長先生、スタッフの皆様のあたたかい治療と安心して透析医療ができますようお願い申し上げます。

終わりに、更なる宏仁会小川病院の御発展を心から御祈念申し上げます。

【25 周年おめでとうございます】

宏仁クリニック　　H・K様

宏仁会小川病院開設 25 周年おめでとうございます。私は今高坂の宏仁クリニックにてお世話になっております。今年で 14 年目になります。ここまで来れたのも先生やスタッフのお陰と思って感謝しております。

透析導入のころは、何も分からず色々とアドバイスを頂きました。またまわりをよく見てみると、一人一人のダイアライザーが違うんです。後から聞いてみると、その人の体に合ったものを使っているのだそうです。先生曰く「こんなに種類の違うダイアライザーを使う病院なんて他にはないよ」って言っていました。これも理事長さんの医療に対する考え方が他とは違うんでしょうね。私たち患者を第一に考えているのだと思います。

また数年前からは、三施設合同の研修会を毎年行っていただき私たちのあまり知らないことがわかり大変勉強になっております。このことは私たち患者や地域医療に対して大変良いことと思いますので、これからも続けてもらいたいと思います。そして近年医療制度改革、診療報酬改革等によって私たち患者、特に弱者に大変な改悪だと思っております。

私たち患者は移植以外は、一生透析を続けなければなりません。どうか我々患者の立場に立った医療を常に目指して頂きたいと思っております。

【宏仁会小川病院開院 25 周年に向けて】

東松山宏仁クリニック　福田　等様

この度は宏仁会小川病院開院 25 周年、誠におめでとうございます。

また、理事長先生をはじめ各院長先生、スタッフの皆様には、25 年の永きにわたり、より良い透析医療のためにご尽力いただきましたこと、患者を代表して心よりお礼申し上げます。

さて、私は現在友の会会長として、県内の透析患者さん達と広く交流をもっていますが、今感じるのは、私は本当に良い病院とめぐり合ったのだという事です。透析患者にとって、週 2 日から 3 日は長時間病院にいるわけです。この時間のすごしかたによって透析人生は大分ちがうものになってしまいます。この問題について、宏仁グループが 25 年間貫いてこられた、患者第一主義とアットホームな病院づくりがあったからこそ、私の 15 年は比較的快適に過ごしてこられたのだと思います。

これからは、私も友の会会長として、病院のスタッフになった気持ちで少しでも良い病院づくりに協力ができればと考えております。理事長先生をはじめ各院長先生、スタッフの皆様には、今まで同様、より良い透析医療のためのご尽力を心よりお願い申し上げます。

最後に宏仁会グループの益々のご発展と皆様のご健勝をご祈念申し上げ、簡単ではございますが、宏仁会小川病院開院 25 周年にむけてのあいさつとかえさせていただきます。

25 周年に寄せて ひとこと

【学会の想い出】

医療法人社団　宏仁会小川病院
常務理事　大谷　百子

紅葉の季節からやがて冬至を迎えようとして居るうちに、「こうじん」の編集者から二十五周年の記事の依頼がありましたので一文を草することにしました。

あの時の学会の想い出が咄嗟に浮かびました。というのは数回の学会へ参加して印象深かった一齣がありました。

講演発表の折に当日の演者が質問ぜめに会い、その時、宏仁会の共同研究者がすばやく立ち上がり、毅然として答えて、その場を切り抜けました。機転をきかしたその連携プレーさにほっとすると同時に職員の皆さんが一体になっているなーと感動したのです。ご苦労様でした。

開院二十余年を経て透析療法学会でのこの様な職員の成果の状景に逢い、最初の頃が懐かしく感慨を新たにしました。

古い諺に「ローマは一日にして成らず」とありますがまさに宏仁会にも当てはまる言葉ではないでしょうか。

これからも増々勉強して研究を重ね宏仁会の大きな発展のために頑張って頂きたいと思います。

現在も学会の話題になると、あの時の様子を同席した方々と語りあう想い出の一齣です。

【安全第一】

医療法人社団　宏仁会小川病院
相談役　北川　忠義

危険だらけの世の中で生涯安全に過ごすことは至難の業であろう。

狩猟、標的射撃を趣味としているが、銃による事故は大事故につながる恐れがあり世間の風当たりも強い。これまで銃による事故が起る度に世論の影響を受けて銃に対する規制が強化されてきた。

それでも毎年銃による死亡事故が起きている。これまで車の事故、狩猟中の事故を経験した。幸い軽い事故ですんだが一歩間違えると大事故になっていたかもしれない。今思うと安全に対する心構えに問題があったと反省している。

危機は何処にもある。機敏な判断の同時に用心深さの自覚が根底になくてはどの様な危機対応策キャンペーンもマンネリに落ち入り画餅に帰する。

最近医療事故が多く世間の風当たりも相当に強い様だ。

宏仁会も医療事故を防止する為の医療安全対策委員会がもうけられ、地震・火災時の対応策としての訓練、危機管理体制が幾重にも講じられていると聞く。これらの対応策がいざという時役立つ為には自分の経験からも各個人の自覚が大事であると痛切に感じるのである。

車の安全も含め病院での事故防止対策が機能することを切に期待するものである。

平成 8 年 12 月 2 日

25 周年に寄せて ひとこと

【運転人生 50 年】

一投稿者

本院運転庶務課職員との日常会話の中で運転に関する昔の話を聞いた。

25 年も前に勤務先の東武鉄道株式会社から精励表彰を受けた事があり、孫にでも見せようと保管してあった古い表彰状の話である。

後日見せてもらった多くの賞状の中には運転保守整備競技会壹位の賞状、運転技術エンジン耐命キロ 30 万キロ表彰と、当時のエンジン道路事情にしてはめずらしい記録の表彰状も残されていた。

この話を聞いた直後こうじんに寄稿したらと勧めたが人様に見てもらう程の事でもない謙遜し書く事をためらう控え目な態度であった。運転人生 55 年間以上も無事故で通した慎重さとそれを持続する精神力は賞賛に値するものである。

本人は賞状をもらった時の感じを「今迄に真面目に努力して良かったなあ」と言うのがその時の感慨の総てであり、これを何時か子や孫に見せたいと思っていたと言うのである。

日頃の真面目な日常生活の態度からその言葉に重い真実味が感じられ聞く人の心に残るものがあるだろう。何事も日常の生き方がその人の行途を決定する。

世に転がる石に苔むさず

（A rolling stone gathers no moss）と言う同じ道を 50 年以上あちこち転がらないで立派な苔が石にはえた運転人生の一つの実例である。

この話しを聞き自戒を込めて人は日頃が大事だと思ったのである。

掲載写真はその表彰状の中の一枚である。

第６回宏仁会研修会

日時：平成 18 年 9 月 3 日（日曜日）
会場：国立女性教育会館　講堂

午前の部：合同研修会（11：00～12：15）
司会　宏仁会小川病院　事務長　徳竹　勇
■開会挨拶
第 6 回宏仁会合同研修会実行委員長　吉田　哲
（宏仁会小川病院院長）
■永年表彰
1．10 年表彰（9 名）　2．20 年表彰（2 名）　3．25 年表彰（2 名）
■永年表彰受賞者代表挨拶
高島　充江　様（東松山宏仁クリニック）
■患者様代表のお話し
芳賀　真紀子　様（宏仁会小川病院）
■新クリニック新築と増改築報告
（1）基本報告　北川　宏（医療法人社団　宏仁会小川病院理事長）
（2）設計報告　徳竹　勇（宏仁会小川病院事務長）
（3）新クリニック院内説明
武野谷　祐子（宏仁会小川病院副師長）
（4）宏仁会小川病院・東松山宏仁クリニック増築・改修説明
澤田　政江（宏仁会小川病院師長）

――――――　昼食・休憩　――――――

午後の部：公開市民講座（13：30～14：30）
司会：宏仁会小川病院　事務長　徳竹　勇

■公開市民講座　開会挨拶
医療法人社団　宏仁会小川病院　理事長　北川　宏

■公開市民講座特別講演（トークショー）
講師　ヨネスケ氏（社団法人落語芸術協会理事）
テーマ　「隣の晩ごはん」に見る家族の絆

《 第 6 回宏仁会研修会　永年表彰受賞者代表 》

【25 年の透析生活を振り返って】

東松山宏仁クリニック
高島　充江様

この度は永年表彰ありがとうございました。
導入時、幼かった息子も家庭を持ち独立しました。肩の荷がひとつ下りた感じです。

健康でなかった分ずいぶんと寂しい思いをさせましたが、それもまた良い経験だったと今は思えます。

導入当初、担当の先生から「もう何でもできます。ですから本人に何でもさせてください」と主人にお話があったそうです。

その言葉を守ったのかどうか、よほどの事がない限り、病院への送迎も子供に関してもあまり手を出すことはありませんでした。

それが良かったのだと思っています。

元気でがんばっている先輩たちを見ていると、よく歩いて、よく体を動かします。

私も都内に住んでいる時よりも東松山に来て、主人の畑に付き合うようになってからの方が元気になった気がします。

私にとってちょっとした自信になったのは、50 歳の時運転免許を取得したことです。
みんなに迷惑をかけながらでしたが、世界が広がった感じでした。

最近は新たな目標を持ちたいと思いながら、日々の忙しさに流されてしまっている状態です。

誰もが多かれ少なかれ辛い想いをしてきている事でしょう。

間違いなく体は衰えていきますが、その時その時の精一杯を笑顔で生きて、家庭をとうして少しでも社会へ貢献出来ればと考えていますが、命の続く限りまだまだお世話にならなければ生きていけないのが現実です。

これからもどうぞ皆さんよろしくお願いいたします。

平成 8 年 9 月 2 日

受賞式風景
東松山宏仁クリニック吉川院長より表彰状が手渡された。

本年度は高島さんを始め、全体で 13 名の方が受賞されました。

《 第 6 回宏仁会研修会　患者様代表のお話 》

【心臓大動脈弁取替手術を終了して】

宏仁会小川病院
芳賀　真紀子様

皆さん、こんにちは

私は、宏仁会小川病院Ｂ班の芳賀と申します。

本日は、第 6 回宏仁会 3 施設の合同研修会の開催おめでとうございます。

この様な高いお席で恐縮でございますが、私の手術体験をお話しさせて頂きます。

透析導入は、平成 5 年 6 月 15 日埼玉医大にて行い、今年 6 月で 14 年目に入りました。

10 年目に入った頃から、咳が出始め咳と共に喉の気管が狭くなり、息苦しさがまるで喘息の症状みたいで、何度も夜に宏仁会に一泊させて頂きました。

そうこうしている内に、咳はますます酷くなり、喘息吸入治療も随分続けましたが、なかなか回復の兆しもなく、昨年は江南町にある循環器病院を紹介して頂き、「アレルギーからくる咳です。」と言われ、4～5 ヶ月通ったのですが、咳は一向に治まらず特に横になるとひどく、夜また透析中もずっと咳に悩まされ続けました。あまりの苦しさに、ある日勇気を出して担当の先生に、「埼玉医大で何が原因か調べて頂きたいので、紹介状を頂けますか。」とお願いし、今回に至りました。

早速、今年 3 月 30 日に入院し、4 月 11 日までの 13 日間、心臓検査のカメラ、またカテーテル検査、その他、もうこれ以上ない位あちこちの検査を受ける事ができました。

私としては手術から逃げたくて「先生、どうしても手術が必要ですか？」とたずねていました。あなたの病名は大動脈弁狭窄症と言って一番大切な弁に石灰が付着し、もう、かすかにしか動いていない状態で、どんどん心臓に負担をかけ肥大し、心不全を起こし死に至ります。後は弁を替える手術しかないですとの事。ここまでは心臓内科でお世話になっていたのですが、手術と決まると今度は担当が心臓外科の先生にタッチされました。

手術までの間に、家族で 2 度担当医の西村先生に呼ばれ手術に対する説明です。成功の話しよりも、もしもの最悪の時の説明がほとんどで、あまりの辛さに、主人がそっと「止めてもいいんだよ。」と言ってくれる程、大変な手術を感じ涙を流す自分、家族がいました。

でも手術をしないと死に至る。その事を考えると、私の気持ちに迷いはありませんでした。

「先生、手術宜しくお願いします。」と出された書類に署名をし手続き終了です。

最後に西村先生の「芳賀さんご縁が有って私のところへ来てくれたのです。だから、私も一生懸命最善を尽くさせて頂きますよ。」とこの真心こもった温かなお言葉に、家族でほっと救われました。この先生に全てをゆだねて大丈夫と、大確信が持てたのです。

5 月 17 日入院　5 月 25 日手術日決定です。

手術までの間に歯科にて奥歯 2 本抜歯。虫歯から菌の侵入が早くて怖いそうです。続いて麻酔科の先生との面談もあり、一目見るなり顔色がいいから大丈夫ですよ。麻酔はその人その人に合わせた量でやりますから安心して下さい。最悪の結果は、宝くじで 1 億円を当てる様なものですと言って下さり、今まで手術に関しこわい話しばかりだったので、主人と「きっと大丈夫ね。」とそっと語りなぐさめ合いました。

いよいよ 5 月 25 日手術当日です。

午前 8 時にベッドで点滴が始まり、9 時より手術開始。手術室に運ばれたのも手術が終了するまで全身麻酔の力で何も分からないまま。待合室で心配の家族に無事終わった事が知らされたのは夕方 4 時頃だったそうです。

手術は大成功でした。それから集中治療室に「手術が終わりましたよ。分かりますか。」と耳もとの声に目をさます。主人、娘、先生たちの顔が目に写る。〝ああ、全て終わった。良かった。〟と思ったのも瞬間の事。そのままま眠った様です。ひょっとして麻酔から目がさめない事もあると聞かされていた家族は、ほっと安心したそうです。

そんな状態の中でも透析治療にお休みはありませんでした。埼玉医大透析室の皆々様にも大変、大変お世話をおかけ致しました。

肺に水が溜まったり、不整脈がおきたりでも、関係の皆様の温かな治療のお蔭で全てを乗り切る事ができました。

最後は 2 号館のリハビリテーションに移り、本格的に歩行訓練、自転車こぎに励み、7 月 15 日に無事退院する事ができました。7 月 17 日（月）よりまた、懐かしい宏仁会小川病院に自力で運転し、通える様になり、現在に至っています。

この席をお借りいたしまして、宏仁会病院皆様をはじめ多くの皆様に励まされ、勇気と力を頂きました事、心よりお礼を申し上げます。

再び頂くことのできたこの命です。これから先、まだまだいろいろな事があると思いますが、どんな時も私らしさを失うことなく、明るく前向きに過して参ります。

皆さん、これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。

平成 18 年 9 月 2 日

芳賀さんのお話に聞き入る皆さん

公開市民講座

「隣の晩ごはんに見る家族の絆」

ヨネスケ　氏

公開市民講座　ヨネスケ氏の講演

「隣の晩ごはんに見る家族の絆」

午後からの公開市民講座は、テレビの長寿番組の一つである「突撃!隣の晩ごはん」のヨネスケ氏の特別講演があった。

ヨネスケ氏のお話しは、文字通り軽妙洒脱といった感じで、聞く者の心に素直に入ってくる、心地よくまた有意義な講演であった。

内容は、「隣の晩ごはん」は事前の連絡もなく見ず知らずの家に突然訪問する「元祖アポ無しロケ」で、そのため多くのハプニングがあり、暴力団組長の自宅とは知らずに訪問してしまったこともあったというエピソード。様々な家庭の料理を食べているが、ヨネスケ氏の口に合わないもの・ 本当に不味いときは「なかなかですねえ」といってごまかすなどの裏話。などを始めとして、日本は世界一の食文化をもっているが、晩ごはんが子供に合わせて「カレー・ハンバーグ・スパゲティ」と軟らかい食事になり、硬いものを食べないので“ キレル・ムカツク ”子供が増えている。など食文化を通じての日本人の変化に対する危惧。

また、風習や伝統など古来から培われてきた日本の文化と、また時代と共に進んでいく文明の比較において、文明の進化に伴って日本人の心とも言える文化が置き去りにされてしまう今日の状況に対する警鐘など、ただ面白おかしい話だけではなく、我々聴衆に対する問題提起は、聞く者の心を捉え多くの共感を呼んだものと思う。さらに、得意の野球論もあり、満場の拍手のもと盛会に終わった。

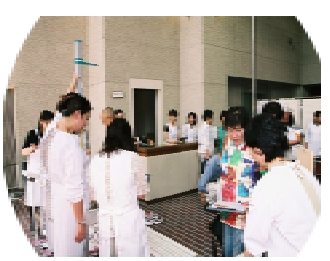
写真で見る研修会

ロビー、展示コーナーの一コマ

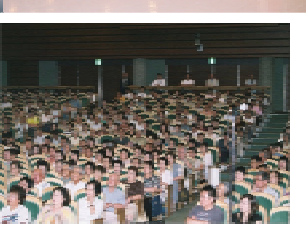
【蔵方先生特別コーナー】

毎年特別展示をして頂いております、蔵方先生の今年のテーマは『解体新書』でした。このコーナーにつきましては、当院ホームページ（http://www.kohjinkai.or.jp/）の『蔵方資料館』に詳しく載っております。

健康チェックコーナーの一コマ



公開市民講座〝ヨネスケ氏〟の会場風景



講演後のヨネスケ氏を囲んでの談笑風景、記念撮影

「新クリニックの報告と今後の予定」

医療法人社団　　宏仁会小川病院
事務長　徳竹　勇

今回このような題を頂き、こうじん 17 号に「平成 18 年度職員総会に寄せて」と題したなかで「新クリニック新築事業計画及び久保田秀男教授紹介」を掲載させていただいた経緯があることを思い出し、若干重複する部分もあるかと思うがご容赦頂ければ幸いです。

平成 17 年 3 月の職員総会で、今年度の大きな事業計画として宏仁クリニックの移設新築計画を本格的に始動したい旨理事長北川宏より発表され、同時に宏仁会小川病院増改築並びに東松山宏仁クリニック透析室改修計画も発表し、新クリニック新築工事と併行して進め診療報酬の厳しい改正を睨み、将来に亘る 3 施設の抜本的改善策に取り組んで行くとの固い決意を述べ、職員も宏仁会の新たな大きなうねりを感じ取ったことだろう。

新クリニック新築計画も医療施設としての立地条件を備えた土地探しから始まり、基本計画の策定、それに伴う行政法規の調査、また、行政機関との認可条件等の打合せを経て、一方では基本設計・監修を広島国際大学久保田秀男教授に依頼し、久保田教授の「患者によし、職員によし、そしてコストよし」を目標とし「患者さまへの配慮と気配り」の考え方に基づき職員との度重なる意見交換を経て漸く目的とする基本設計が出来上がり、11 月 1 日古郡建設株式会社と建築請負契約を締結し、これから多くの関係各社の協力の下に新クリニックの建築工事が始まることになります。

新クリニックの施設概要について改めて報告致します。

所在地

：東松山市大字西本宿字諏訪久保 1759－1

構　造

：鉄筋コンクリート造　４階建

１階～外来診療、検査部門、リハビリセンターの設置

２階～透析、管理部門フロアー

３階～入院病棟フロアー

４階～研修並びに地域開放型多目的ホールの設置

（完成予想図を別添掲載しております。）

このような新クリニックの一大プロジェクトを推進する意義、コンセプトについて記しておきたい。

コンセプトの３つの柱

1．宏仁クリニック移設新築に伴う高坂駅を中心とした拠点機能の整備拡充
2．患者さまと家族主体の医療提供施設の具現化
3．医療サービスを中心とした地域への貢献

３つのコンセプトを実現するための５つの目標

1．患者さまと家族の「心」に配慮した施設づくり
2．透析医療の拡充、環境の充実
3．患者さまの入院環境の充実
4．地域住民に貢献できる施設づくり
5．スタッフの意識改革によるサービスの質向上

重複になりますが、これからの宏仁会は、これを機に大きな改革に取り組み意義、コンセプトに心し、より多くの患者さまに来ていただけるクリニックを目指してまいります。３施設が揃って良くならなければこの一大プロジェクトを成し遂げた意義はなく、更なる発展もありません。

今後の予定ですが、現在現地で建設事務所を立ち上げ、１２月中旬より建築工事に入り、約１０ケ月の工事期間を経て、来年（平成１９年）９月中旬竣工予定であります。すばらしい設計に基づき、斬新なアイデアを盛り込んだクリニックとして自信をもって地域の皆さまに貢献できるものと確信しております。

最後に、最近読んで心に残った聖路加国際病院理事長，名誉院長日野原重明先生の本の一節を記したいと思います。

「病院には、施設や医療機器などが当然必要とします。しかし実際には、それを使う人間が、お互い有機的に繋がって、あるいは助け合っていかなければ上手にいきません。生きた有機体と同じように病院が「葉は葉、根は根、幹は幹」、それぞれがそれぞれの機能を発揮しながらも、そこに血が通っている、そのような柔らかさをもって、そこに診察に来る、あるいは入院する人の手当てをすれば、医療行為による治療効果以外に「癒しの力」が与えられる。」と

新クリニックの建設予定地における
地鎮祭の風景

平成 18 年 10 月 7 日

《 高坂・新クリニック完成予想図 》

久保田　秀男先生

1945 年広島県生まれ。70 年京都大学大学院工学研究科建築学専攻終了同年日建設計入社。米国留学、設計部長、技師長（医療福祉業務統括担当）などを経て、2003 年より広島国際大学社会環境科学部環境デザイン学科教授。一級建築士

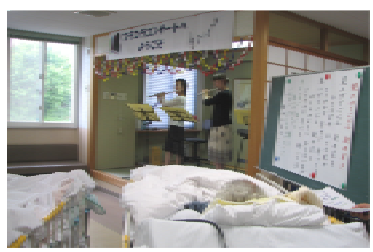
平成18年度を振り返って

3月　職員総会・職員歓送迎会開催

平成 12 年 3 月 7 日に第 1 回職員総会が開催され今回で 7 回目を迎えました。昨年「宏仁クリニック移設新築事業計画」を発表し、今年度はクリニックの新規事業計画を柱と位置づけ、新クリニックの基本計画・監修をお願いいたしました広島国際大学環境学部住環境デザイン科教授久保田秀男先生をお招きしての特別講演がありました。

6月　ボランティアによるプチコラコンサート開催

6 月 10 日にボランティアによるプチコラコンサートが行われました。フルートの素敵な音色に参加者全員が〝うっとり〟感動の日でした。



第 51 回日本透析医学会学術集会開催　（横浜）

『過酢酸系消毒（ヘモクリーン）の使用経験と細菌コントロール』　菊地　和彦

『血液透析回路標準化への検討』　邊田　智晴

の 2 名の方が発表されました。

日本睡眠学会　第 31 回定期学術集会開催　（大津）

宏仁会小川病院院長吉田哲先生と、臨床検査技師馬場由紀子さんが出席されました。

7月　宏仁会納涼の夕べ

今年は、いつもお世話になっております、鈴木和雄先生にも参加して頂きました。
また、高橋団長が率いる柔道の集いの方々の〝ちかん撃退法〟を披露して頂きました。
ちょっと前は若かった女性職員が真剣に学習しておりました。（よく見れば、皆、美しい職員です。！？）

≪ちかん撃退法の一場面≫

9 月　宏仁会 3 施設合同研修会

午前の部は、患者様の永年表彰の後に、高坂・新クリニックについて平面図を使っての内部構造の説明と、久保田先生の設計された病院の写真を通して受付やラウンジ、外来、透析室のイメージをお伝しました。また、小川病院の増築並びに一部改築、東松山宏仁クリニックの改築の説明がありました。

午後の部はヨネスケ氏を招いての市民講座でした。約 520 名の方が楽しまれました。

10 月　宏仁会 3 施設合同勉強会

各施設より 6 演題の発表がありました。

・看護記録研修会の報告
　「これからの看護記録－05 日本看護協会の指針を含めて」　中里　留美子
・糖尿病患者のフットケア　菅原　貞子
・外来維持透析導入に苦労した糖尿病症例　高木　美智子
・維持透析患者に発症したクローン病の 1 症例
　－ペンタサ R 錠投与量の検討－　吉田　暁子
・宏仁会グループウェアの運用について　石井　浩美
・ホームページ・リニューアルの報告　武野谷　祐子

11 月　第 29 回日本スリーデーマーチ参加

今年も参加者全員完歩されました。
お天気にも恵まれました。

12 月　創立 25 周年宏仁会年忘れの夕べ

＝美川憲二ショー＝

どうぞ、来年も良い年でありますように！

平成19年度の主な事業計画案

宏仁会３施設の主要な事業計画を情報誌「こうじん」をお借りしてお知らせいたします。

＊　３月１７日（土）第８回職員総会・職員歓送迎会開催予定

＊　４月３日～５日（火～木）第１０４回日本内科学会開催（大阪）

＊　５月１日（火）高坂・東松山　創立記念写真撮影実施
　　宏仁クリニック（第１６回）：平成３年５月１日開設
　　東松山宏仁クリニック（第１２回）：平成７年５月１日開設

＊　５月２５日～２７日（金～日）第５０回日本腎臓学会開催（浜松）

＊　６月１５日～１７日（金～日）第５２回日本透析医学会開催（大阪）

＊　７月中旬、第４回宏仁会納涼祭開催予定

＊　９月２日（日）第７回３施設合同患者研修会・公開市民講座開催予定

＊　１０月７日（日）第１３回宏仁会３施設合同職員勉強会開催予定

＊　１１月７日～９日（水～金）第３２回日本睡眠学会開催（東京）

＊　１１月３０日（金）小川　創立記念写真撮影実施
　　宏仁会小川病院（第２６回）：昭和５６年１２月２日開設

＊　１２月２２日（第４土）平成１９年度忘年会開催予定

編集後記

宏仁会小川病院創立 25 周年おめでとうございます。

歴史の重みを感じながら、記念号を編集いたしました。

武野谷　祐子